



Tokyo Gakugei University Repository

東京学芸大学リポジトリ

<http://ir.u-gakugei.ac.jp/>

Title	日本語を使って発表しよう：学校生活の違いから文化を考える
Author(s)	杉本, 紀子
Citation	研究紀要/東京学芸大学附属高等学校大泉校舎, 28: 51-62
Issue Date	2003-12-15
URL	http://hdl.handle.net/2309/5537
Publisher	
Rights	

日本語を使って発表しよう ～学校生活の違いから文化を考える～

杉本紀子

1 はじめに

本校では、今年度3名の留学生を受け入れている。日本語科ではこの3名と1名の帰国生（本校における一般生徒）を対象にJSL-plusのカリキュラムを施行し、日本語の指導を行っている。

資料1・2は現行の1、2年生の生徒のカリキュラム表である。特に1年生においては長期在外経験のある帰国生をいかにして一般生徒のカリキュラムに適應させていくかを目的としている。2年生は留学生用のカリキュラムとなっているが、こちらも時間の経過と生徒の到達度にしたがって一般生徒のカリキュラムに移行していく形態をとっている。

ただし、生徒の学習の速度や到達度は一様ではない。ゆえに移行できる時期やクラス（科目）はその生徒の実情と対象科目の授業の進度・内容を鑑みたくて決定されることとなっている。資料に示された移行時期や科目は一応の目安である。

2 日本語取り出し指導

JSL-plusのカリキュラム対象生徒に対しては、まず入学時に面接やインタビュー等を通じてスクリーニングを行う。その結果とプレースメントテストを経て、個々に応じたレベルでのカリキュラムが適應されることになる。プレースメントテストには、日本語能力検定試験の過去問題や独自に作成した語彙・文法の問題を使用している。

対象生徒の多くは既習歴がほとんどないため、プレースメントテストでの得点はさほど高くない。しかし、入学前にどの程度日本語に触れたことがあるのか、日本語への興味がどの程度なのか、どの分野の学習が進んでいるのか等についての情報を知るための大切な材料となり、また、その後の生徒の到達度を計る重要な基準になる。

取り出す時間は、学習初期においては10時間から16時間としている。生徒の履修科目の希望によって取り出す時間は増減があるが、初心者から初級の学習者に対しては、3ヶ月程度のテキストを使用した基礎固めが必須であると考えため、週の半分近くを取りだし指導にあてる場合もある。

取り出し指導は日本語科の教員だけで行えるものではない。資料3にあるように、本校では取り出し指導の初期においては13名の教員で分担している。1・2年生合同のクラスは日本語科の教員が受け持つようになっているが、その他の時間は時間割上で空いている教員が協力する指導体制をとっている。

3 授業の実際

ここで紹介する授業以前に生徒は約5ヶ月間の基礎学習（生徒がこれまでに取り出しのテキスト学習で学んで

きた内容に関しては資料4を参照されたい)を経てきている。3ヶ月を経た頃から徐々に通常のクラスに移行しながらも、ここまで取り出しによる指導も継続されている。しかし、この授業が展開された9月から10月期はちょうど前期が終了する時期でもあるため、生徒たちはより多く通常のクラスの授業に移行することになる。すなわちこの時期は取り出し指導の時間よりも通常授業に入る時間の方が圧倒的に多くなる時期なのである。他の生徒と同じ教室で、教師や生徒たちとコミュニケーションを図りながら、日本語による授業を受けることの多くなるこうした時期に、テキスト学習で得た方法を活用し、また日本語で表現することや日本文化に対するより深い理解を図ることは重要であると思われる。そういう意味から、今回の実践は日本語のスキルの獲得のみならず、JSL-plusの「plus」の部分にあたる日本文化への理解をも同時に図ることを目的としている。

目的：日本と海外の学校を様々な視点から比較することによって、日本の学校のあり方や、日本の文化を理解する。

基礎的な文型を応用する学習と連携させ、日本語の基礎的文型を定着させる。

自分の考えたことや調べたこと、持っている知識を他者に伝える「表現」の機会を利用して相互コミュニケーションを図る力をつける。

内容：実践の期間 9月期

単元名 大泉校舎と自分がいた国の学校の比較

- 単元の目標
- ・日本の学校生活のあり方を通して日本の事情を知る。
 - ・学校生活の中で特に違いを感じる点について話し合い、違いが生じる原因について考え、文化の差異を意識する。
 - ・日本語で書かれている資料を読みとる作業を通して「読む力」を養う。
 - ・発表に対する質疑応答を通して相互コミュニケーションを図る。

対象生徒：A 中国からの帰国生（女子）

B インドネシアからの留学生（女子）

C オーストラリアからの留学生（男子）

D 中国からの留学生（男子）

対象生徒所見：A、Cは、入学・留学前にそれぞれ日本語の既習歴がある。Aは日本の中学に通った経験があるが、入学時にはほとんど日本語が話せない状態であり、日本語での指示も理解困難であった。現在は教員やクラスメートとも日本語でコミュニケーションがとれるようになってきている。通常クラスへの導入期にあたるが、国語・社会の科目は未だ通常クラスの授業を受けていない。来年度からはJSLクラスを出て、通常の授業に入ることを目指している。Cはオーストラリアで第2外国語として日本語を学んだ経験があるが、体系的な理解に乏しく、語彙も日本語能力検定4級レベルも網羅できていない状態であった。現在は基礎的な文型学習・文法学習により、文法事項についても自ら体系的に整理しようとする姿勢が見られるようになってきている。B、Dは既習歴0時間から学習を始めた。特にDは夏休み中に来日し、9月から学習を始めたばかりである。B、Dともに学習意欲が高く、Bは日本語能力検定の2級を、Dは3級の合格を目指している。

指導計画 1時間目 テーマについて理解し、現段階で日本の学校（大泉校舎）と海外でそれぞれがいた学校の違いについて思っていることを話し合う。

2時間目 前時に話し合ったことを思い出しながら、比較のポイントを整理し、それぞれについて相違点をメモする（母語を使ってもかまわないと指示）。

3時間目 大泉校舎の学校要覧やカラーパンフレット・シラバスの説明を聞き、内容を参考にしながら

ら、メモをもとにして決められたフォームに従って比較の表を作成する（完成しなかった場合には宿題とする）。

4 時間目 各自が作成した比較表を使って発表する。その際質問カード・意見カードを記入する。

5 時間目 お互いに意見を交換する。

この単元を進める上で、授業者が最も重きを置いたのは、2、4、5 時間目である。もちろん導入である 1 時間目や書く作業を取り入れた 3 時間目も大切な時間ではあるが、今回の単元の目標においては学校生活の違いを通して文化の差異を意識することを重視したため、2、4、5 時間目の活動は学習者にとって重要なものとなった。

1 時間目

テーマについて授業者から説明を受けると、すぐに反応があった。自由に意見を出し合ったが、「大泉校舎は自由」「自分がいた国の学校の方が厳しい」という点に関しては共通した感想が見られた。

2 時間目

前の時間に話し合った内容を思い出しながら、比較のポイントを整理した。どういうポイントがあるかの例を授業者側から 1～2 挙げたが、生徒自身も「お弁当（昼食）」「施設（生徒からは facilities という言い方で表現された）」「時間割」といった項目を比較のポイントとして提示した。また、本校は日本の他の高校と違ったところがあること、そういう意味で言えば比較の対象は 3 種類（自国の学校・大泉校舎・日本の一般的な高校）になることも生徒の方から自発的に述べられた。

3 時間目

本校の時間割やカリキュラム・施設などの概要を再確認しておくために、日本語版のシラバス・カラーパンフレット・学校要覧と英語版のパンフレットを配布し、生徒にも分かる表現で書かれてある部分や単語を指し示しながら、授業者が概要を説明した。

作業の際に比較の表の形式をあらかじめ決めておいたのは、比較の内容に重点を置いたためである（発表の仕方や資料作成の方法を学ぶには、表のレイアウトや、見出しの付け方などの細かなポイントも生徒に考えさせることが重要かと思われるが、今回の単元では取り入れなかった）。

4 時間目（本校で開催された研究協議会での公開授業）

学習指導案（4 時間目）

	学 習 活 動	指導上の注意事項
導入 5分	<p>各自の比較表を見ながら、発表の仕方を確認する。</p> <p>「今日は、自分が作った表を見ながら、日本の学校とあなたがいた国の学校の違いを発表してください。」</p> <p>「他の人の発表を聞いて質問があったら、質問カードに書いてから、質問してください。」</p> <p>「他の人の発表を聞いて意見があったら、意見カードに書いてから、意見を言ってください。」</p>	<p>一つ一つの指示が分かっているか確認しながら進める。</p> <p>カードを示して説明する。</p>

	「発表の時間は一人7分間です。」	
展開1 35分	発表・カード記入	一人一人の発表が終わったら質問カードか意見カードを書くように指示する。
展開2 8分	質問・意見の交換	質問カード・意見カードを確認して話し合いを始める。
まとめ	学校のあり方は国によって違うことを確認し、それぞれの国の教育への考え方の違いに気づく。「みなさんのいた学校と日本の学校にはどうして違いがあるのだと思いますか。」	「教育」という言葉の各国語訳をカードにして示す。

評価の観点 ・発表のための表を、文型や文法に注意して作成できたか。

・ほかの人に伝わるように日本語で話すことができたか。

・学校のあり方の違いも文化の一つであることに気づくことができたか。

4時間目は、本校で開催された研究協議会の公開授業であったこともあり、参観者が多く、普段とは違った雰囲気での授業となった。生徒は他の生徒だけでなく、参観者にも伝わることを意識して発表しており、評価の観点にも挙げた「伝わる日本語」をより強く意識できる場となった。また外部からの参観者がいることで、他の生徒だけでなく、参観者の反応を受けて、自分の考えが他者にどう受け入れられているのかを考えることができたようでもあった。ただし、普段の授業であれば、発表の途中にもいろいろとコメントが飛び出し、そこからみんな考えるという運びになるところが、雰囲気の違いと授業者の指示不足によって発表をする・発表を聞くという活動だけに終止してしまっただ点は反省すべき点であった。また、話すこと・聞くことに重点を置くために、各自の資料を敢えて生徒に配布せず、生徒は自分の資料のみを手元に置くことにしたのだが、やはり、学習者同士の発表の聞き取りには限界があり、また、知らない語彙をその場で確認することができずに困ったようであった。初級者の発表活動においては、話すこと・聞くことに注意を喚起しつつも発表原稿や資料は全員分用意し、配布されている方が学習者にとってはよいと考えられる（生徒の発表資料は資料5を参照のこと）。

発表の内容に関しての興味深い点としては、生徒の大半が「大泉校舎（日本の学校）の生徒はあまり自立性がない」という感覚を抱いていることが挙げられる。また、本校の時間割やカリキュラム、テストの回数を比べたりすることで「大泉校舎のほうが暇だと思う」という生徒や「自分のいた国の学校は厳しいけれど、日本の学校は楽しい（つまり楽）」という意見を持っている生徒もおり、そうした生徒は「日本の高校生は勉強に対する意欲がない」というイメージを持っているようであった。

5時間目

前回の発表時に各自が書いた質問カードや意見カード（資料6参照）をもとに意見交換を行った。まず、前回は配布していなかった生徒の発表資料を全員に渡し、再度発表の内容を確認しながら、質問カードに記入した内容の確認を行った。前回の発表から数週間が経ってしまっていたため、発表内容を思い出すために取り入れた作業であったが、意外にも自分のカードの質問の追加や訂正を行った生徒が多く見られ、以前に聞き取った内容をあらためて「読んで」確認した事によって、理解が深まったことが感じられた。

生徒がカードに記入した質問には以下のようなものがあった（文法的な間違いや語句の間違いはそのままにしてある）。

① ○の学校は、皆勉強一生懸命ですか。(D→C)

② ○の学校の先生は皆やさしいですか。(D→B)

- ③ あなたの学校の先生は難しいですか。(D→A)
- ④ なぜ、(中国では)先輩と後輩の関係あまりない?(D→A)
- ⑤ 制服がある無?(D→B)
- ⑥ 皆はムスリムですか?(D→B)
- ⑦ ○○は運転することができる?(D→C)
- ⑧ 皆自分の車がある?(D→C)
- ⑨ 国立学校と私立学校はどちらのほうがいいですか?(B→C・D)
- ⑩ 部活はないんですよネ、どういう活動やりますか?(B→C)
- ⑪ じゅくに行く人はたくさんいますか?(B→A・D)
- ⑫ 中学でインターネット使う?(B→A)
- ⑬ 普通の学校では授業がえらべる?(B→C)
- ⑭ 大泉校舎のルールとか、教授の科目とか、どちらのほうが好き?(A→B)
- ⑮ 道徳の教授は大切と思いますか。(A→B)
- ⑯ 大泉校舎は○○の学校より自由ですか。(A→D)
- ⑰ 北京の学校の生活は大泉校舎の生活より楽しいですか。(A→D)
- ⑱ 日本の学校と中国の学校とどちらのほうが人が多いですか。(C→A)
- ⑲ 大泉校舎とインドネシアの学校の科目はどのようにちがいますか。どんな科目を勉強するのができますか?(C→B)
- ⑳ 中国の学校と大泉校舎とどちらの方が好きですか?(C→D)

(*文中の○○には生徒の名前が入っている。)

これらの質問のうち、実際にその場に挙げられたのは、④・⑬・⑮である。⑱も挙げられが、本校は日本の他の学校と比べても人数の上では特殊であるということをお互いに確認しただけで話題は広がらなかった。

4人の生徒が特に活発に意見を交換し合ったのは④・⑬であった。

④の質問に関しては、まず、生徒Aから以下のような回答と意見が出ていた。

なぜ、中国では無いのか、理由はよく分からない。日本の学校は先輩と後輩の区別や関係が厳しい。中国では先輩に「おはよう」と言えばいいが、日本では「おはようございます」を言わなければならないし、部活動の合宿に行っても、学年でお風呂に入る順番まで決まっている。大泉校舎は帰国生の学校で、外国で暮らしていた人が多いのにどうして先輩・後輩の区別をするのか。

この意見に対して、別の生徒からは次のような反応があった。

たしかに日本は先輩後輩の关系到厳しいところがある。それは文化的なものなのではないか。
 自分の国の学校では挨拶や接し方は、日本のように厳しくはないけれど、年上の生徒が年下の生徒の態度が気に入らないからといって、冷たかったりすることはある。
 自分の国の学校では、クラブ活動の準備なども先輩後輩関係なく、みんなの責任でやるけれど、日本の学校では後輩がやらされることが多い。

このような反応を受けて、生徒たちは先輩・後輩の関係について、疑問をもっていたのが自分だけではないことに気づき、安心するとともに、先輩と後輩という上下関係が日本人の人間関係に対する考え方と関わっている

と理解し、「どうして日本人は先輩後輩の関係にこだわるのか」という疑問を持ち始めた。授業者からはこの疑問に対して答えを与えるという形をとらず、「たしかに年上の人を敬うという考え方があるが、そもそも年上の人間は年下の人間を育て、守るという責任もある」ということを述べ、その上で、日本人の人間関係に対する基本的な考え方には日本の歴史や身分制度・宗教の影響なども関連していることを示唆した。また、学校だけでなく社会においてもそういう考え方があることも加えて述べた。

日本人がなぜ先輩・後輩という考え方にこだわるのかという疑問に対する明確な答えをこの授業だけで出すことは難しい。しかし、学校生活の比較から日本人の人間関係に対する考え方への疑問が生まれたのは一つの収穫であった。

また、⑬の質問に関しては、その質問に対する答えを契機として、大学への進学の方法について、各々の説明がなされ、授業者からは日本の進学のシステムに関して説明した。生徒BとCはそれぞれ、高校の間に大学でどのようなことを専門にするかを考えて履修科目を選ぶことになっていることを説明し、本校での履修のしかたや日本の高校生の目的意識の持ち方に疑問を呈していた。また、AとDの生徒は北京での進学熱について説明し、授業者の説明を聞いて、自国のシステム（統一試験の成績で行ける大学が決まるというシステム）と日本の個別学力試験のシステムの違いを知ったようであった。そうした意見・情報交換を経て、各国の進学に対する姿勢の違いを知り、疑問や反論を持ち、教育を社会問題の一つと考えられる姿勢が今後身につくことを期待したい。

4 まとめ

JSL-plus は単なる日本語の言語的学習にとどまらず、日本語の学習を通して日本文化・社会への理解を深めることを目的としている。そういう見地から言えば、今回の授業は学校生活の比較という作業と発表・質疑応答という活動を通して日本語で伝えること・日本語を聞き取ることを学びながら、日本社会の一面への疑問を持つことができたという意味で、ある程度 JSL-plus の目的にかなった内容であったと考えられる。ただし、授業自体としては生徒の学習能力の高さに助けられている点が多く、改善するべき点が多分にある。具体的に挙げるならば、授業計画の再考・指示内容の正確性を高めること・資料作成方法等のスキル学習の導入等である。また、単発的な学習ではなく、こうした活動を盛り込んで系統的に学習を進めていける教材を開発することも急務である。

参考文献 村野良子『高校留学生に対する日本語教育の方法 言語学習と文化学習の統合と学習支援システムの構築にむけて』（東京堂出版 2001.2）

『ひらけ日本語』上・下・使用の手引き（凡人社）

本稿は、平成15年9月30日に開催された東京学芸大学教育学部附属大泉中学校と本校の合同で開催された平成15年度研究開発学校最終年度研究協議会での公開授業および発表と、同年10月30日・31日に本校で開催された全附属高等学校教育研究大会での発表資料をもとに加筆・訂正をしたものである。

研究協議会で助言をいただいた斎藤ひろみ先生（東京学芸大学）、また両会で御意見・御教示を賜った諸先生方に深謝いたします。

資料1

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
一般生徒	国語総合		JSL基礎日本語 JSL日本語理解I	現代社会	JSL社会 JSL日本文化社会 リエンテーション	理科総合	物理I 化学I 生物I	情報A	体育	音楽I 美術I	数学A 応用英語 基礎英語 基礎仏語 日本語理解	英語I	英語I	OC1 上級 和語 仏語 西語	家庭 基礎	知的 探究														
	JSL	JSL基礎日本語 JSL日本語理解I		JSL基礎日本語 JSL日本語理解I		JSL理科 選択科目別語理解 数学用語 理科用語 自然科学用語理解	情報A	体育	音楽I 美術I	数学A 基礎トイ語	JSL基礎日本語 JSL日本語理解I	家庭 基礎	知的 探究																	

6月・7月



JSL	JSL基礎日本語 JSL日本語理解I	JSL社会 JSL日本文化社会 リエンテーション	理科総合 JSL基礎日本語 JSL日本語理解I	JSL理科 選択科目別語理解 数学用語 理科用語 自然科学用語理解	情報A	体育	音楽I 美術I	数学A 基礎トイ語	JSL基礎日本語 JSL日本語理解I	OC1	家庭 基礎	知的 探究
-----	-----------------------	--------------------------------	-------------------------------	---	-----	----	------------	--------------	-----------------------	-----	----------	----------

9月



JSL	JSL基礎日本語 JSL日本語理解I	JSL社会 JSL日本文化社会 リエンテーション	理科総合	JSL理科 選択科目別語理解 数学用語 理科用語 自然科学用語理解	情報A	体育	音楽I 美術I	数学A 基礎トイ語	英語I	OC1	家庭 基礎	知的 探究
-----	-----------------------	--------------------------------	------	---	-----	----	------------	--------------	-----	-----	----------	----------

10月・11月



JSL	JSL基礎日本語 JSL日本語理解I	現代社会	理科総合	JSL理科 選択科目別語理解 数学用語 理科用語 自然科学用語理解	情報A	体育	音楽I 美術I	数学A 基礎トイ語	英語I	OC1	家庭 基礎	知的 探究
-----	-----------------------	------	------	---	-----	----	------------	--------------	-----	-----	----------	----------

12月・1月



JSL	JSL基礎日本語 JSL日本語理解I	国語総合	理科総合	JSL理科 選択科目別語理解 数学用語 理科用語 自然科学用語理解	情報A	体育	音楽I 美術I	数学A 基礎トイ語	英語I	OC1	家庭 基礎	知的 探究
-----	-----------------------	------	------	---	-----	----	------------	--------------	-----	-----	----------	----------

*対象生徒：日本語初級から中級段階の長期在外一 中級後期から上級に關してはJSL日本語理解II・日本語表現IIから始める。
 *必修修科目に關しては、原則的に当該学年度内にとりだし(JSL)から一般クラスにもどす。
 ○実際には各教科の教官数や、時間割の都合上、専門科目以外の教官がJSL科目の指導に当たる場合もある。

資料2

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
一般生徒	世界史B 日本史B 地理B	世界史A	物理B 化学B 生物B 地理B	物理IA 化学IA 地理IA	物理IB 化学IB 生物IB 地理IB 国際理解	家庭一般	体育	保健	音楽IB 美術IB 美術IB 音楽IB 美術IB 音楽IB	古典I	現代文	数学II	数学B 応用英語 基礎英語 基礎仏語	英語II	英語II 上級 独語 仏語 西語	HR	課題													
																		JSL基礎 日本語 JSL基礎 日本語	音楽II	美術II	JSL基礎 日本語	数学I	JSL基礎 日本語	英語II	JSL基礎 日本語	英語II				
																		家庭一般	体育	音楽II	美術II	JSL基礎 日本語	数学I	JSL基礎 日本語	英語II	HR				

6-7月

JSL	世界史B 日本史B 地理B	物理IB 化学IB 生物IB 地理IB	家庭一般	体育	音楽II	美術II	JSL基礎 日本語	数学II	数学B	JSL基礎 日本語	英語II	HR	課題
-----	---------------------	------------------------------	------	----	------	------	--------------	------	-----	--------------	------	----	----

9-10月

JSL	世界史B 日本史B 地理B	物理IB 化学IB 生物IB 地理IB	家庭一般	体育	音楽II	美術II	JSL基礎 日本語	数学II	数学B	日本事情	英語II	HR	課題
-----	---------------------	------------------------------	------	----	------	------	--------------	------	-----	------	------	----	----

10-2月

JSL	世界史B 日本史B 地理B	物理IB 化学IB 生物IB 地理IB	家庭一般	体育	音楽II	美術II	JSL基礎 日本語	数学II	数学B	英語II	HR	課題
-----	---------------------	------------------------------	------	----	------	------	--------------	------	-----	------	----	----

資料 3

平成 15 年度日本語指導 No.1 (2003 年 4 月～7 月)

対象生徒： 生徒 A (1 年生) 日本語取り出し指導 16 時間

生徒 B (1 年生) 日本語取り出し指導 16 時間

生徒 C (2 年生) 日本語取り出し指導 12 時間

対象者	指導者	指導時間/週	使用教材	主な学習内容
1 年生・ 2 年生 合同	a (国語)	月 1, 5, 水 2, 4 金 3	ひらけ日本語 (凡人社)	文法・文型
1 年生	b (外国語)	月 4, 水 5, 木 2	高校生の日本語 1 2 か月 (AFS)	文型・会話
	c (国語)	金 2	語彙文法 20 のテーマ (凡人社) 初級日本語 文法解説 (凡人社)	語彙・文法
	d (公民)	火 3	指定テキストはなし	JSL 社会
	e (外国語) f (外国語)	火 4 木 4	読解 20 のテーマ (凡人社)	読解・日本事情
	g (理科)	火 6, 金 4	指定テキストはなし	JSL 理科
	h (数学)	金 1	指定テキストはなし	JSL 数学
	i (音楽)	水 1	指定テキストはなし	音楽・歌
2 年生	j (国語)	水 2, 木 3	語彙文法 20 のテーマ (凡人社)	語彙・文法
	k (外国語)	月 6, 木 6	読解 20 のテーマ (凡人社)	読解・日本事情
	l (保健体育)	月 2	ニュースから覚えるカタカナ語 350 (アルク)	語彙・日本事情
	m (保健体育)	金 5	指定テキストはなし	擬音語・擬態語
		金 6	1 週間の復習、記録	

理解チェック		JSL基礎日本語		教材: ひらけ日本語
		文法・文型	会話	
4月	1 何をすればいいか指示がわかる	文字と発音	50音の発音	第1課 …は～です/～ではありません/～ですか/も(助詞)/これ/それ/あれは…何ですか …はどれですか/どの/この/あの/その/だれ/どなた/…の～(所有)/…は～で、～は～です/ここ/そこ/あそこ
	2 動作の前後関係、順番がわかる	文字と発音	50音の発音	…は～です/～ではありません/～ですか/も(助詞)/これ/それ/あれは…何ですか …はどれですか/どの/この/あの/その/だれ/どなた/…の～(所有)/…は～で、～は～です/ここ/そこ/あそこ
	3 人や物の特徴、性質などについての描写がわかる	単語と発音	日常生活の中で使う単語をよみ、語彙を獲得する	自分の表現を使って話せる 月日の表現を使って話せる
	4 自分のことについて話せる	単語と発音	日常生活の中で使う単語をよみ、語彙を獲得する	ものの状態について単文で説明できる 自分の行動について単文で説明できる
	5 わからないことを質問できる	文型練習1 (AFS生の12ヶ月・3月～4月)	わたしは…です。これは…です。ここは…です。 Vます・Vません・Vてください。時間・曜日・日数 …の前に、…の後に、何・どんないつ・だれ・どこ・どう	簡単な質問ができる
	6			
	7			
	8			
5月	1 授業や部活動について意見や希望を述べられる	文型練習2 (AFS生の12ヶ月・5月)	…にいます/…にあります/Vている Vます・Vません・Vてください。時間・曜日・日数 Vたい/…ほしい/…てもいい/…てはいけない …に(へ)行きます/…に來ます …がすきだ/…がきらいだ。…ので、…から	第2課-1 …に～があります/…や～など 第3課-1～2 助数詞/…が[数]と～が[数]あります …と～が[数]ずつ/いくら/…[数]でしか/も 第4課-3 …といふよに/どこか/だれか/そして、それから/…か～ 第5課-2 い形容詞+くて/な形容詞+で(並列)/どんな/い形容詞+な形容詞+(準体書)/しかし 第6課-1～3 V-ました・ませんでした/N+な形容詞+でした/ではありません/でした/い形容詞+かったです/くありません/…です/から/で/しよう
	2			
	3 問題や悩みについて相談できる			
	4 日常生活について報告できる			
	5			
	6			
	7			
	8			
6月	1 過去の経験・日本での経験について話せる	文型練習3 (AFS生の12ヶ月・6月)	…たり…たりする。もし…たら、…たら …は…が…です。…ましょう。…ませんか Vに行く・来る …たことがある	第7課 …てください(くださいませんか)/…ないてください/今 V-ています/で(手段方法)/…を [数]/…い形容詞+い形容詞+に 第8課 に+ (発着)/V-て、…(並列/順次動作/状態/方法)/V-ないで …は～があります/…は～がです。…は～です/ます(主題)/…は～が、～は(対比) 第12課 NへV-て行きます/来ます/いつよにV-ませんか/V-ていきます/きます/…と…をいいます/わたしは～と思います/…かどうか …か…ないか/疑問詞+か、～/…をかけています/着ています/…をかけたN/V(自動詞)-ています/もうV-ました/まだV-ていません
	2 計画・待ち合わせ・時刻などについて確認できる			
	3 ある条件のもとでのことを話す			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
7月	1 自分の行動や事実について説明ができる	文型練習4 (AFS生の12ヶ月・7月)	…できる。…せる。…れる。…られる …のだんだん。…なる。…ようになる あげる・くれる・もらう。…ている。…である …にする。…という	第9課 名詞修飾/Nの…(形容詞)とき/V-てから/Vながら/[期間]に[回数]/…から/…で(理由)/…ましよう(呼びかけ) どこか/なにか/…か。…(形容詞)+ (名詞)/Nといひます/…という～ 第10課 Nが好きです/…こと/Nがほしいです/V-たいです/V-たがっています/NはNより/…NとNとどちらが…か/Nのほうが… NはNほど…ない/NのなかでNがいちばん… 第11課 N・V-こと ことができます/可能動詞/Nが見えます/聞こえます/…の(準体書)/音/におい がします/V-ない
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
8月	1	文型練習5 (AFS生の12ヶ月・8月)	…てあげる・くれる・もらう。…だろ/つもり/はず/よ/てい …と思う/思っている。…という・書く・…そう …のこと。…より/どちらが… いちばん… …とか	
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
9月	1 経験したことについて、感想を交えて具体的に時間の流れを述べて話すことができる	文型練習6 (AFS生の12ヶ月・9月)	…ながら。…し。…てこまる。…てみる …てくる・いく。…そうだ。…って …だす。…ても/でも	第13課 自動詞/他動詞/V(他動詞)-てあります/V-ましようか(申し出)/否定質問…ないですか/…からです(理由)/それで(理由) …の・…の 第14課 …のですか/…かもしれません/NのV-かた/V-やすい/にくい/いな形容詞+さ(名詞化)/…で(理由)/…だろ/と思ひます Nでも(例示)/[数量]で(限度)/V-はじめます/おわります/つづけます
	2 変化したことについて話すことができる			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7 ある話題について意見を述べることができる	長文読解練習1	長い文章を読んで理解する	
	8	討論をする	読んだ長文について話す	
10月	1	文型練習7 (AFS生の12ヶ月・10月)	…てしま/う。…とば/たらなら Vたほうがいい/Vかた Vられる/Vさせる/Vさせられる	第15課 い形容詞+くなります/な形容詞+になります/N になります/Vようになります/Vなくなります/もし…たら/V-たほうがいいです V-ないほうがいいです/V-う/よ/と思ひます/V つもりです/を(経路)
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7 ある話題について意見を述べることができる	長文読解練習2	長い文章を読んで理解する	第18課 …と～(必然・警告)/…たら～(未来完了)/…なら～/…ば～/…ても/でも/…どんなに…ても/でも～
	8	討論をする	読んだ長文について話す	第23課 NIにV-れる/られる/NにV-れる/られる/V-V-ように言ひます/命令文/禁止文/V-V-ない ように します

資料 5

	インドネシアの学校: SMU Negeri 1 Depok	大泉校舎	日本のほかの学校
1.	<p>インドネシアの学校の責任</p> <ul style="list-style-type: none"> - 道徳の事も学校の責任 → いじめも礼儀正しさはあわさなければなりません → しつこさの科目もあり → だらだらの科目もあり 	<p>大泉校舎</p> <ul style="list-style-type: none"> - 道徳も学校の責任だけれど、本格的に → ありません 	<p>日本のほかの学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ~
2.	<ul style="list-style-type: none"> - 制服 13.30時まで - 7時から 13.30時まで - お弁当は持ってきて - 食べ物、物、クラスの中に持ってくるのはいいです - 飲み物は持っては来ません - 1日時間一日の休みが、休み時間は10-10.30 (45分) - 器具や用具が充実してない - しつこさで、多くの科目があります - たくさんデスカッション、意見をたくさん出します。 	<ul style="list-style-type: none"> - 制服がありません - 0.30時から 15.00日まで - 1つもお弁当は持て来ません - いいです - 6時間 (50分) 休み時間 19.20-12.50 - 充実していません。 - ありません - 先生はたくさん説明しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ~
3.	<ul style="list-style-type: none"> - 宿題はインドネシアのほうが多い - Discipline、授業中は静、毎教室に リーダーが、ほかからいつも責任を持って - 1つしきの事はよくやります。時どき勉強は後回しになります。生徒会は政治の力が、学校で持っています - 学校系終わったら部活やたり、よく → たり英語の人もやっています。 	<ul style="list-style-type: none"> - Discipline (毎に会う) 競争、たたり、うるさかたたり - 先生の介人、おこりが多いたたり - 同じです。 - ないです。 	<ul style="list-style-type: none"> ~
4.	<ul style="list-style-type: none"> - 朝礼は毎月曜日 - 1つしきは自分の教室だけ、 	<ul style="list-style-type: none"> - ないです。 	<ul style="list-style-type: none"> ~

意見カード

_____ について意見があります。

例) 大泉校舎は _____ の学校より _____ だと思います。

例) _____ 学校の _____ は大泉校舎の _____ より _____ です。

例) 大泉校舎と _____ の学校の _____ は _____ がちがいます。

例) _____ の学校は _____ ので、 _____ だと思います。

質問カード

_____ に質問します。

例) 大泉校舎は _____ の学校より _____ ですか。

例) _____ 学校の _____ は大泉校舎の _____ より _____ ですか。

例) 大泉校舎と _____ の学校の _____ はどのようにちがいますか。

例) _____ の学校はどうして _____ ですか。

*ほかの文型を使って質問してもいいです。